様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年　５月１１日現在

機関番号：13901
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008～2012
課題番号：20520576
研究課題名（和文）
出土文字資料からみた古代天皇の家産制的手工業の研究
研究課題名（英文）
Study on Handicraft of Imperial Household from Excavated Written Sources
研究代表者
古尾谷　知浩（FURUOYA TOMOHIRO ）
名古屋大学・文学研究科・准教授
研究者番号：70280609

研究分野：日本史学
科研費の分科・細目：史学・日本史
キーワード：古代史、天皇、家産制、手工業、出土文字資料

１．研究計画の概要

本研究は、文献史学の方法に立脚しつつ、考古学が明らかにしてきた技術史的観点を重視し、両者をつなぐ史料として、出土文字資料、特に手工業生産の場で記される文字も検討の対象に据えながら、天皇の家産制的手工業のあり方を研究することを目的とする。

この目的を達成するため、次のような作業を行う。まず、主たる検討対象とする手工業の分野を（１）土器（２）瓦（３）金属器の三つに設定して検討を進める。方法としては、ａ手工業生産・流通・消費に関わる文献史料の調査、ｂ各分野についての考古学・文献史学の先行研究の整理、ｃ出土文字資料などとして得られる、手工業生産物自体に記された文字の調査、及び手工業生産物と伴出する出土文字資料の調査の三つを主要な作業とする。特に、（１）・（２）の窯業生産については、出土文字資料のうち、製品製作の過程で記される土器や瓦への箆書文字が、生産の実態を直接うかがうために有用な史料であるので、この調査を重視する。また、出土文字資料については出土遺跡の立地、出土遺構、伴出遺物の検討が重要なので、現地踏査を重視している。

２．研究の進捗状況

上記の作業は同時進行的に進めるが、これまで特に（１）土器・（２）瓦について重点的に扱っている。そのほか、（３）金属器のうち一部についても調査範囲を広げている。具体的には以下の通りである。

（１）土器

箆書のある須恵器、灰釉陶器などの出土事例を収集し、これを、従来知られている文献史料からわかる土器の生産・流通構造の中に位置づける研究を行った。成果は主として後述の雑誌論文⑤にて公表した。

（２）瓦

箆書のある瓦の出土事例を収集した。また、古記録・古文書にみえる瓦の生産について分析を行い、平安時代の瓦生産において、奈良時代と比較すると工人の自立性が強まったが、瓦窯を所有する寺院などは自立しようとする瓦工に対して支配を強化しようとしていたとの結論を得た。成果は主として後述の雑誌論文②にて公表した。

（３）金属器

青銅器生産のうち、梵鐘生産について取り扱い、平安時代においては、奈良時代と比較すると工人の自立性が強まったとの結論を得た。成果は主として後述の雑誌論文③にて公表した。また、鉄生産についても取り扱い、予察として後述の学会発表①を行った。

（４）その他

以上のような手工業分野ごとの研究のほか、手工業一般について原材料、製品の流通ついても検討した。成果は主として後述の雑誌論文①にて公表した。

（５）全体の総括

上記の個別研究を踏まえ、古代の天皇家産制的手工業全体について検討した。奈良時代と比較すると、平安時代は手工業者が自立し、貴族などの個別家産機構に分散する傾向があるが、天皇の代替わりの際の大嘗祭調度製作、神宝製作などにおいて、天皇の下に手工業者が再編成され、天皇の求心力が維持され

ていたとの結論を得た。成果は主として後述の雑誌論文④にて公表した。
　また、以上の諸論文を含め、出土文字資料を重視しながら古代の手工業史全体を総括する図書（後述の図書①）を刊行した。

３．現在までの達成度
　①当初の計画以上に進展している。
　後述の通り、上記（１）土器・（２）瓦・（３）金属器の個別の分野についての論文だけではなく、天皇家産制の歴史全体の中に手工業を位置づける論考を公表し、これを踏まえて出土文字資料からみた手工業に関する著書をまとめることができた。これは当初計画では５年間の研究期間で行うことを予定していたものであり、前倒しで実行できたことになる。以上のことから、当初の計画以上に進展していると判断した。

４．今後の研究の推進方策
　これまで達成してきたことを踏まえ、新たな２点の課題を認識するに至った。すなわち、研究史的にも（３）金属器のうち鉄生産、鉄製品生産の議論が立ち後れていること、地方の手工業生産についてはまだ検討が不十分であること、の２つである。今後はこの２点を中心に研究を推進する予定である。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）
①古尾谷知浩「京と流通」（『季刊考古学』112号、査読無、2010年、63頁～66頁

②古尾谷知浩「平安時代の瓦生産」（『古代文化』61巻１号、査読有、2009年、22頁～36頁

③古尾谷知浩「平安時代の梵鐘生産」（『名古屋大学文学部研究論集』164号、査読有、2009年、１頁～９頁）

④古尾谷知浩「天皇家産制研究の課題」（『日本史研究』558号、査読有、2009年、28頁～36頁）

⑤古尾谷知浩「焼成前刻書土器再論－東海地域の事例を中心に」（『日本考古学協会 2008年度愛知大会研究発表資料集』、査読無、2008年、639頁～642頁）

〔学会発表〕（計２件）
①古尾谷知浩「文献史料からみた古代の鉄生産・流通と鉄製品の生産」（第14回古代官衙・集落研究会、2010年12月11日、奈良文化財研究所（奈良県）

②古尾谷知浩「天皇家産制研究の課題」（日本史研究会、2008年10月12日、花園大学（京都府）

〔図書〕（計１件）
①古尾谷知浩『文献史料・物質資料と古代史研究』、塙書房、2010年、386頁